

## 第 183 回友の会 笹間ヶ岳

～夏の湿地を訪ねる～

日時 : 2020 年 8 月 30 日 (日)  
場所 : 滋賀県大津市笹間ヶ岳  
コース : J R 石山駅～アルプス登山口 (バス) ～  
富川道登山口～富川道

天候 : 晴れ

参加者 : 一般 34 名、スタッフ 20 名 合計 54 名

今回も前回に引き続きコロナ感染は収まりを見せていない中での観察会となり、参加人数がとても心配でしたが、当日はたくさんの方々が参加してくださいました。

J R 石山駅から「アルプス登山口」行きのバスに乗り込み、瀬田の唐橋を渡ったあと瀬田川沿いに下り、石山寺を川向こうに見ながら通り過ぎます。しばらくして大戸川を越えると家はなくなり一面に青々とした田んぼが広がります。村を通り過ぎたところが終点「アルプス登山口」です。このバス停から観察会を開始しました。



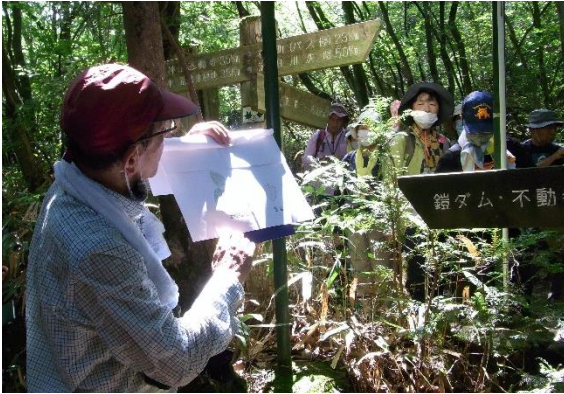
ホツツジ

早速、天神川の橋の上から、花が終わったアカメガシワ、ヘクソカズラとガガイモの白い花、奥にはピンク色のアレチヌスビトハギがありました。川の上流へは新名神高速道路の建設工事で通れず、回り道を通ります。そこには、アレチヌスビトハギを始めとしてオオマツヨイグサ、メリケンムグラ、ヨウシュヤマゴボウなど外来種が数多く見られました。攪乱地には外来種が入り込みやすいです。

天神川沿いに上流へ進んでいくと木立が道の両側に現れます。まず目についたのは巫女さんが持つ神楽鈴のように咲く淡いピンクのホツツジです。ホツツジは細かな枝分かれが多く、この枝を束ねて箒(ほうき)に利用されていたところから別名「ヤマホウキ」といいます。

す。きれいな花ですが、有毒です。次に見つけたのはヌスビトハギ。これは在来種でひつつき虫の実が 2 つ並びます。これに似た外来種がアレチヌスビトハギです。大きな違いはひつつき虫の実が 4 ～ 6 つ並んでいるところです。さらに、淡く赤褐色を帯びたクリーム白のノギランがありました。葉っぱを見るとショウジョウバカマかと思いますが、1 本の

花茎に枯れた花かと思うような花が穂状についているので全く目立ちません。富川道の途中にも沢山ありましたが、ほとんど気づかずに通り過ぎていました。赤い実のアオハダやカクミノスノキ（ウスノキ）もありました。他にも、リョウブの花やノリウツギの装飾花が残っていました。



フモトスマレの説明

30分ほど歩くと富川道登山口に到着。ここでひと休憩をとり、スタッフがこの辺りで見られる



フモトスマレ

フモトスマレの説明をイラストを使って説明しました。さて、ここから富川道を進んでいきます。道が深くえぐれていたり、崖崩れがあったりしたところを過ぎると、少しきつい登りに

なりました。足下には石が多くなります。石がぬれていると靴が滑りバランスを崩す場面が増えてきました。大きな岩の隙間を通り過ぎると岩場が増えてきます。両手をあけて慎重に歩を進めます。岩場は木が少なく、強烈な日差しが上から降り注いでいました。「今回は登山ですね！」という声がチラホラ聞こえ始めたところで、足もとには湿地の植物であるモウセンゴケが見え始め、続けてアリノトウグサ、ムラサキミミカキグサ、ホザキノミミカキグサが現れました。花はとても小さくて写真に収めるのがとても難しかったです。



ホザキノミミカキグサ

小さな池に到着してサギソウを探しましたが、かろうじて3輪が花を咲かせているだけでほとんど見当たりませんでした。まわりの草が倒れているのもう枯れてしまったようです。一週間前の下見では20輪ほど可憐な花を咲かせていたのにとっても残念です。先の湿地や大きな池のまわりまで見に行くと、かろうじて10輪ほどのサギソウが見られたので、もっとサギソウが見たいという人たちと一緒に見に行きました。



池には捕虫囊を持つタヌキモ、黄色い花のミミカキグサやコケオトギリ、星のような形の花のシロイヌノヒゲやミカヅキグサなどがありました。食事後、食虫植物やゴヨウマツの話スタッフクイズを入れながら行いました。帰路は同じ道をたどりました。行きよりも帰りの方が滑りやすく、注意しながら下っていきました。今回の観察会では、ケガをした方はおられませんでした。途中体調を崩されたりした方が少なからずおられました。

でも大事に至らずよかったです。結構ハードな観察会でした。(細川 幾由)